

2012年度 外国語学部(スペイン・ラテンアメリカ、フランス、ドイツ、アジア学科)・法学部

2012年2月12日実施

解 答

1 (C)	2 (D)	3 (B)	4 (D)	5 (B)	6 (C)
7 (A)	8 (A)	9 (A)	10 (B)	11 (C)	12 (C)
13 (C)	14 (B)	15 (D)	16 (B)	17 (A)	18 (D)
19 (C)	20 (B)				

1. 「駐車する場所があるのなら、自動車を持っていると便利だ」

- ▶ 空欄前後で2つの文が成立しているので、( ) that で1つの接続詞となるような語を選ぶ。(C)provided (that) ~ で「～という条件で/もし～とすれば」(if よりも文語的)という意味の接続詞である。
- ▶ somewhere は副詞だが、名詞的にも用いられる。

[例] You need somewhere to put them.

(それらを置く場所が必要だ。)

if の代用語

<input type="checkbox"/> unless ~ 「～でない限り(=except that)/もし～でなければ(=if ... not)」
<input type="checkbox"/> provided[providing:口語的] (that) ~ 「もし～ならば/～という条件で」
You can get a good seat for the concert, provided (that) you reserve it in advance. (前もって予約しておけばコンサートのいい席が取れます。)
<input type="checkbox"/> suppose[supposing] (that) ~ 「もし～ならば」
*仮定法で使用できるのは suppose[supposing](that)~のみ。supposed(that)~の形はない。
<input type="checkbox"/> as[so] long as ~ 「～しさえすれば/～ならば」
<input type="checkbox"/> on condition (that) ~ 「～という条件で/～ならば」

2. 「間違っても、庭から犬を出さないでよ！」

- ▶ 選択肢の中で、カンマ前後の2文をつなぐ機能をもつものは副詞節を導く複合関係代名詞である(D)whatever 「何が[を]～しても」のみである。
- whatever you do 「いいか/絶対に/念を押して言うが」

Whatever you do, don't mention my name.

(いいか、絶対に私の名前を口にするなよ。)

3. 「もし会社がより多くの手当てを提示していれば、私はその地位をより真面目に考慮していただろう」

- ▶ 時制の問題であるので文中に手がかりを探す。仮定法過去完了の if 節に対して、過去の事柄の推量を表す would have done 「～したことだろう」が続くので(B)が正しい。

仮定法過去完了

基本形: If + S + had done, S' + 助動詞の過去形(would, could...) + have done ...  
「もし(あの時)～だったら、…だっただろう(に)」と過去の事実に反する仮定・想像する構文。

If I had left ten minutes earlier, I would not have missed the train.  
(もし10分早く出発していたら、列車に乗り遅れることはなかっただろうに。)

4. 「ボブが恋に落ちた女性は、出会ってから数週間後に、彼のもとを去った」

- ▶ 選択肢はすべて関係代名詞であるので、先行詞と空欄前後の構文を調べてみる。Bob fell in love with the woman を the woman を先行詞にする関係詞節に変えると、The woman with whom Bob fell in love あるいは The woman (whom) Bob fell in love with となる。本問では前者の形である。

fall in love with ~ 「～に恋をする/～に惚れる」

I fell in love with a girl on a crowded commuter train.

(ぼくは混んだ通勤電車の中で女の子に恋をしました。)

### 前置詞と関係代名詞

#### (1)関係代名詞が前置詞の目的語の働き

He is the actor who(m) Ann sent a fan letter to.

(彼は、アンがファンレターを送った俳優だ。)

この文では the actor が先行詞で, who(m) Ann sent a fan letter to の部分が関係詞節となっている。この who(m)は、文末の前置詞 to の目的語の働きをしている。

#### (2)前置詞を関係代名詞の前に置く

関係代名詞が前置詞の目的語になっている場合、その前置詞も一緒に関係詞節の先頭に置くことができる。この場合 who を使うことはできず、関係代名詞を省略することもできない。

He is the actor to whom Ann sent a fan letter.

5. 「ジョンは、他の人がたいていはするのを嫌がることを、いつだって喜んで手伝ってくれる」

▶ 他動詞 dislike は目的語に動名詞をとり、dislike doing で「～することを嫌う」の意。ちなみに, dislike to do の形はまれである。

□ dislike doing 「～することを嫌だと思う」

I dislike being alone.

(1人でいるのはいやだ。)

cf. dislike of [for] ~「～への反感」

I have a strong dislike of [for] cats.

(私はネコが大嫌いだ。)

□ be willing to do 「～してもよいと思っている/～するのをいとわない」

He is a warmhearted person; he is always willing to help others.

(彼は心の温かい人です。いつも他人を助けることをいとわない。)

6. 「マイクは今日元気そうに見えない。我々は彼から目を離さないようにすべきだ」

▶ 選択肢はすべて前置詞であるので、空欄前後の文脈から意味の通るものを選ぶ。  
(C)on には動作の対象を示す意味があり, keep an[one's] eye on ~で「～から目を離さないでいる」という表現になる。

[例] My uncle kept a careful eye on the house while I was away.

(私が留守の間、叔父は気をつけて家を見ててくれた。)

7. 「我々は、われわれのプロジェクトにボランティアが必要だが、わずか 6 人でよい」

▶ 選択肢の中で more than を修飾して意味の通る表現は、(A)の no more than のみである。

□ no more than ~「わずか～だけ/～しかない」 (= only/as few[little] as )

⇒「少なさ」を強調

He paid me no more than 3,000 yen for the work.

(彼はその仕事に対して、私に 3,000 円しか払ってくれなかつた。)

cf. not more than ~「多くとも～/せいぜい～」 (= at most)

⇒「～より多くはない」⇒数量の上限を表す

There were not more than twenty people in the theater.

(その劇場には、せいぜい 20 人しか人がいなかつた。)

8. 「私は、実のところ、月末までにこの報告書を仕上げる必要がある。そうでなければ、私は職場で困ったことになる」

▶ 空欄の後が the end of the month という名詞句なので、前置詞である(A), (B), (C)の中から選ぶ。「～までに」と期限を限る場合は before や by を用いる。until や till は継続を表し「～までずっと」の意である。

9. 「20 歳以上の日本人はほとんどみな運転免許を持っている」

- ▶ 空欄前の almost は副詞なので、空欄には形容詞が入ると推測できる。「～のほとんどすべて」という意味で almost を用いる場合、almost all ~, almost all the ~, almost all of the ~の形になる。almost は副詞なので、直後に of をとることはできない。

almost副と most形・図の使い分け
□ <b>almost all A = most A</b> 「(限定されない)ほとんどの A」
□ <b>almost all (of) the [one's] A</b> = <b>most of the [one's] A</b> 「(限定された特定の)A のほとんど」 ▶ almost は形容詞や副詞、動詞を修飾して「ほとんど～」という程度を表す副詞である。したがって、名詞を修飾することはできない。
「ほとんどすべての学生」 <b>almost all students</b> (× <b>almost students</b> [almost には形容詞の用法なし]) = <b>most students</b> (× <b>most all students/most student</b> [単数不可])
「その学生たちのほとんど」 <b>almost all (of) the students</b> (× <b>almost of the students</b> [名詞の用法なし]) = <b>most of the students</b> (× <b>most of students</b> [the が必要])

10. 「私にこの仕事を与えてくれてありがとう。私はあなたをがっかりさせはしません」  
▶ 空欄後に you down とあるから SVOC の語法をとる動詞を選ぶ。この語法をとるのは(B), (D)であるが、文意より(B)が正解となる。(D) set ~ down は「～を下に置く/～を書き留める」という意味である。

□ **let ~ down** 「(人)を失望させる」 (= **disappoint ~**)  
▶ 本来 let down の語順だが、目的語は代名詞が多いので、let ~ down の語順がふつう。

Bob *let me down again.*

(ボブはまた私を失望させた。)

11. 「ダイアンは本当に陽気な少女だ。彼女は、会う人皆に愛想よく『こんにちは』と言う」  
▶ say hello to ~ 「～に『こんにちは』と言う/～によろしく伝える」の意。

「Aによろしく伝える」[会話表現]
A : <b>Say hello to A.</b> 「Aによろしくね」 B : <b>OK, I will.</b> 「わかりました。伝えておきます」 ▶ Say hello to A. に対しては <b>I sure will. / Yes, I will. / OK, I will.</b> など I will を含んだ形の承諾表現が用いられる。
A : <b>Give my (best) regards to A</b> 「Aによろしくお伝えください」 ▶ Say hello to A. より礼儀正しい言い方。regards「よろしくというあいさつ」の前に best/kind(est) がつくことが多い。 B : <b>Thanks, I will.</b> 「ありがとうございます」 ▶ A が身内の人の場合、I will. に Thanks./Thank you. がつくこともある。

12. 「ベルが鳴ったが、教授は彼の講義を続けた」  
▶ 選択肢はすべて 2 語からなる群動詞である。文意より (C) go on with ~ 「～(仕事など)をどんどん進める」が適切。その他は、(A) keep out ~ 「～を入らせない/入らないでいる」, (B) run for ~ 「～に立候補する」, (D) set in 「(物)を(型などに)はめこむ/始まる」という意味である。

□ **go on with** ~ 「～を続ける」 (= **continue ~**)

*Go on with the treatment. It is doing you good.*

(治療を続けなさい。良くなっていますから。)

cf. **go on doing** 「～し続ける」 (= **keep on doing**)

*She didn't want to go on being secretary.*

(彼女は秘書を続けたくなかった。)

13. 「フレッドはこの 10 年以上、旅行体験に関して、地方紙のために記事を書いている」

- ▶ 選択肢を眺めると、時制を問われていることがわかるので、文の中に時制を決めるキーワードを探すとよい。for more than ten years「この10年間以上」という期間を示す語句があるので、動作動詞の write は現在完了進行形にする。
14. 「私は、週末に家にいたくない。家から出て何かをするのが好きだ」
- ▶ stay は自動詞で「滞在する/居続ける」の意。enjoy, spend とともに直後に場所を表す語句をとることはできない。keep は自動詞で keep at ~「～を(頑張って)やり続ける」という表現を作るが、ここでは文意がまとまらなくなるので不適。
15. 「マークは新しい労働環境に慣れるのに難題を抱えている」
- ▶ (D)adjusting が適切。他の選択肢は文法的に不可。have problems doing で「～するのに障害がある/～するのに難題を抱えている」の意。
  - **adjust to ~** 「(環境など)に順応[適応]する」 (= **adapt to ~**)  
*Adjusting to the tropical heat was more difficult than they had expected.*  
 (熱帯の高温に順応するのは予想以上に困難だった。)
16. 「メアリーは毎日オフィスへ来ない。ただ1日おきに来る」
- ▶ every other ~で「1つおきの～」の意。
  - **every other + 単数名詞** 「1つおきの～」  
 (= **every second + 単数名詞** / **every two + 複数名詞**)  
*He writes to his girlfriend almost every other day.*  
 (彼はガールフレンドにはほぼ1日おきに手紙を書いています。)
  - ▶ **every other day** 「1日おきに/2日ごとに」  
 (= **every second day/every two days**)
17. 「フランクは何にでも興味をもつ。彼は、見るもの、読むものに常に好奇心を抱いている」
- ▶ 選択肢はすべて形容詞であるので、文脈と空欄後の about を手がかりに解いていく。curious about ~で「～について知りたがっている、～に好奇心を抱く」の意で、意味的にも(A)が正解である。
- [例] *She's always curious about what I'm doing.*  
 (彼女は私のすることをいつも知りたがる。)
- その他の選択肢は、(B)adequate「十分な量[質]の」、(C)prominent「卓越した、有名な」、(D)dependent「(…に)頼っている」という意味である。
18. 「あなたが誕生日に欲しいものについて明確にしてください。あなたが何が欲しいかを、私に正確に教えてください」
- ▶ 問17と同様に、本問も選択肢がすべて形容詞であるので、文脈と空欄後の about を手がかりに解く。前置詞 about は「～について」という関連を表し、specific about ~で「～について具体的である、～に関して明確である」の意。
- [例] *Can you be more specific about it?*  
 (それについてもっと具体的に説明してくれませんか。)
- (A)narrow「狭い」、(B)obvious「明白な」、(C)essential「不可欠の」、(D)specific「特定の、具体的な」。
19. 「英語が流暢になる魔法なんかない。問題は、熱心に勉強し、頻繁に実践で使うことだ」
- ▶ It is a matter of ~「～の問題である」の意。  
 選択肢はそれぞれ、(A)goal「目標」、(B)solution「解答」、(C)matter「事柄、問題」、(D)motivation「動機づけ」という意味。
20. 「ローラは、富士山の頂での素晴らしい眺めに非常に感動した」
- **be impressed by ~** 「～に感動する/～に感銘を受ける」  
*I was impressed by the energy and commitment shown by the players.*  
 (私は選手たちの見せた元気と献身に感動した。)
  - ▶ **impressed** が形容詞化して **with, at** も可能  
*He was impressed at how well she could read.*  
 (彼は彼女があまりに上手に読めるのに感心した。)